

旅の友

旅仲間の声を満載した
ホームページもご覧ください
●www.club-t.com

仲間が広がる、旅が深まる

CLUB TOURISM

2月号

2003年 February

旅行設定期間1月～10月

平成15年1月10日発行

クラブツーリズムの旅で
笑顔と元気を得て、また次の旅へ



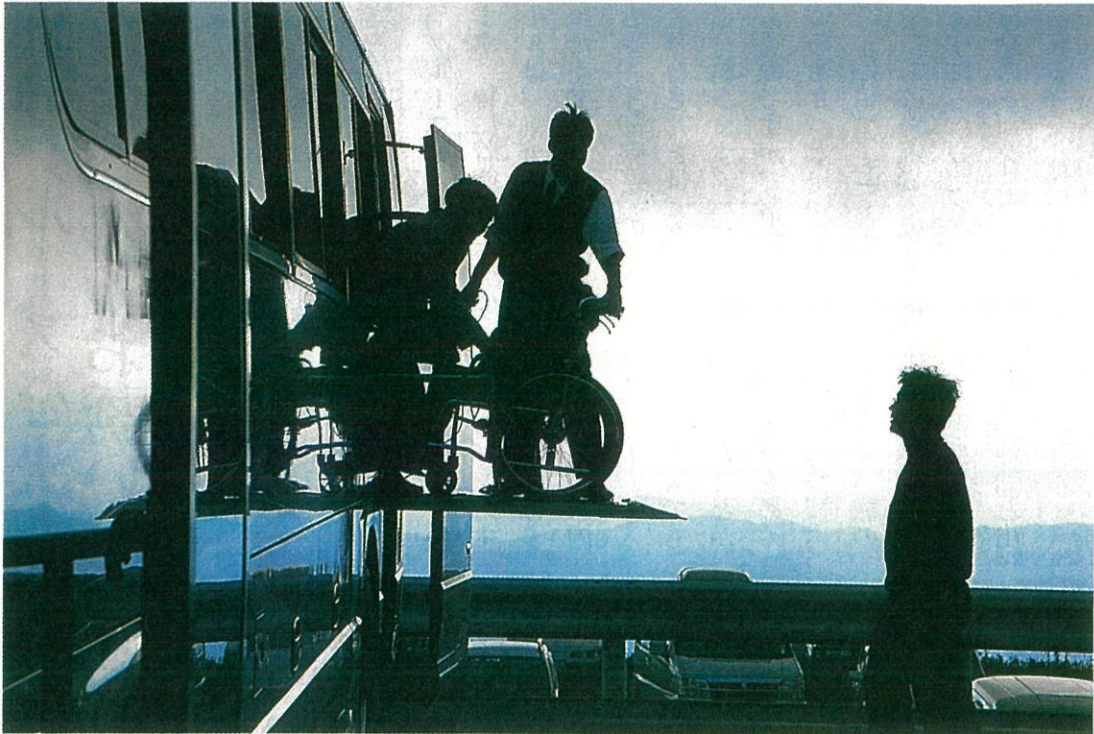
車いすにとって、街は思った以上に不親切です。病に倒れ車いすを使うようになった妻は、外出のたびに悔しい思いをしてきました。でも、バリアフリー旅行に参加したことをきっかけに、自信と意欲を取り戻してくれたようです。旅にはこんな効果もあるんですね。これからはますます旅を楽しんでいきたいと思っています。
バリアフリー旅行にご参加 埼玉県上尾市 老沼壽男さん(後列右) 宮城県松島港にて

国内テーマ特集

千年の歳月を超えて生き続ける
古仏と出会う旅

海外テーマ特集

味わう、聴く、愛でる
街あるきは春風によって



車いすごと乗り降りできるリフト付きバスが旅の可能性を広げてくれた。でもなにより必要なのは、人の手と心

「旅の友」メッセージ
テーマのある旅

2

感動を与えてくれる旅を わけへだてなく、だれにでも 旅のバリアフリー化

視覚障害の方のためのツアーでの一幕。ヨーロッパのある街で、郊外の小高い丘に登った。頂にたどりついた瞬間、偶然にも街中の教会の鐘が一斉に鳴り響いた。もちろん鐘はいつもと同じように時を告げるために鳴らされたにすぎないのだが、このときは、目の見えない人たちに、丘のふもとに広がる美しい街並みの存在をありありと伝えてくれた。思いがけない感動に、皆しばしそこに立ちつくした。

体力に自信のない方や車いすをご利用の方などのためのハワイトツアーに参加したある男性は、脳卒中による運動障害を抱えていた。病後初めての旅行。歩くことへの意欲も乏しく、すべてに対して自信を失った状態だった。しかし、旅を続けるうちに少しずつ笑顔がこぼれるようになり、帰国後は「また行きたいから」と、これまで消極的だったリハビリにも、自ら進んで取り組むようになったという。

「体が不自由だと、旅に行っても楽しくないのではないか。周囲に迷惑をかけるだけではないか」と、旅行をためらう人が大勢いる。でも、旅の可能性は広がっている。たとえば体が不自由でも、ためらうことなく参加できて、当たり前前に楽しめる旅は夢ではない。

ゆったり、あせらず
秋まっさかりの東北へ向け出発

朝からのあいにくの雨の中、バスは東北の紅葉をめざして出発した。今回のツアーの参加者は一六人で、大型バスの座席が半分ほどしか埋まっていない。後方には車いす専用スペースが設けられている。

今回レポートするのは「バリアフリー旅行」と呼ばれるツアーで、車いすごと乗り込むことのできるリフト付きバスの利用、ゆったりとしたスケジュールなど、通常のツアーに参加するのは体力的に厳しいという方も無理なく楽しめるように組み立てられている。空席が目立つのは、ゆったり座り、スムーズに移動できるようにという配慮なのだ。

参加者は、脳梗塞によるまひなどで車いすを利用、リユーマチのため杖に頼っている、心臓病で体力に自信がない、などさまざまな理由からこのツアーを選んだという方々。「バリアフリー旅行」の経験は浅いが、ツアーの楽しさをよく知っていて、これからも旅を楽しんでいきたいと

秋の東北で心の洗濯 ゆったり、急がず バリアフリーの旅

だれだって年をとるし、健康を崩すこともある。でも、それを理由に旅をあきらめたくない。スケジュールやサポート体制などに配慮された「バリアフリー旅行」で、南東北の絶景を訪ねた。

松島・蔵王・裏磐梯
新！南東北縦断三日間

コース番号
21377
10月24日出発
(2泊3日)



上/瑞巖寺へ 下右/瑞巖寺境内の老沼寿男さん・一江さん 中左/乗船待ちの老沼さんご夫妻(左)と小林さんご夫妻 下左/遊覧船内にて。「あれが〇〇岩です」とアナウンスのたびに窓際に鈴なり。手前は三好ひとみさん・中村幸子さん

いう皆さんだ。

ご夫婦で参加の埼玉県新座市の柳川伸さん・敏子さんは、簡易車いすを持参されている。

「三年前までは一般のツアーを利用して、二人でよく旅をしました。でも私が倒れてからはなかなかそうもいかなかった」という敏子さん。

伸さんは、「海外の行きたいところは一通り行きました。これからは、国内をゆっくりまわろうと思って」「旅の友」で見つけたバリアフリー旅行を申し込んでみたという。

サービスエリアでの休憩のときなど、たいていのツアーではまず「何分後集合で、何時出発」と案内があるものだが、バリアフリー旅行ではそれが無い。「全員そろってから出発します」とだけ。万事ゆったり、急がずに目的地への旅を続ける。

松島も蔵王のお釜も五色沼も、
みんなで見よう、感動しよう

二日目は、前日東京に降っていた冷たい雨がうそのような、おだやかな晴天に恵まれた。

東京都杉並区の奥田君江さんはお

一人でのご参加。ツアーは、数年前に脚の関節の手術を受けて以来、久しぶりという。

「国内はもちろん、ヨーロッパ各国、ネパールなど、旅行が好きで今までいろいろ行きました。でも脚を悪くしてからは一緒に行く友達には気兼ねしてしまし、自信を失ってしまいい、しばらくツアーには参加していませんかった」。今回は行程などを調べ、これほど配慮がされているなら大丈夫かもしれない、と、思い切って参加してみたのだそうだ。

「行きたい場所がまだまだたくさんあるんだもの。こういうゆったりとしたツアーなら、海外も夢じゃないわね」

瑞巖寺参拝の後、松島港から船に乗り込み、松島湾の遊覧に出発した。船の中では各自好きな場所に着席して、穏やかな海の風景を楽しんだ。

昼食後は一路蔵王へ向かった。軒先につるされた千し柿、稲刈り後の田んぼの藁の山など、車窓にはのどかな風景が現れては過ぎていく。

しかし、到着した山頂は、打って変わって真冬のような気温だった。山の天気は変わりやすいというが、

●●●●●
わたしの旅
 ●●●●●

●●●●● 脚の手術をする前は、よく海外へのツアーに参加していました。でも「何歳になっても行けるから」とハワイだけ後回しと思っていたので、今はハワイに行きたい。あとは、かつて共産圏で足を踏み入れられなかった国にも行ってみたいですね。今回参加してみて、また海外に行けると思えるようになりました。●●●●●
 ●●●●● 東京都杉並区の奥田君江さん ●●●●●

ツアーの行程

1	新宿＝上野＝松島(泊)
2	松島＝瑞巖寺…松島港～松島遊覧船～塩釜＝(蔵王エコーライン)＝蔵王・お釜＝山形(泊)
3	山形＝(西吾妻スカイパレー)＝桧原湖＝五色沼＝上野＝新宿

宿泊ホテル:①ホテル松島大観荘②ホテルキャッスル

ツアーで訪れた観光地



お釜にて。上/できたばかりの展望台。風が強く、とにかく寒かった！
 下右/ちょっとだけ斜面を降りて、火口湖に近付いてみた 下左/すっかり冷えたけれど、アツアツの玉こんにゃくで復活、の中村幸子さん

にわかに霧が周囲を覆い、時折強風も吹き付けていた。

訪れたことがある方なら容易に想像していただけたと思うが、お釜周辺は石がむきだしのでこぼこ道で、足の不自由な方の通行に向いているとはいえない。しかもこの天候なので、見物をあきらめてしまう人がいてもしょうがないという状況だった。

しかし、このツアーの直前、車いすでも通行可能な高台の展望台と遊歩道が完成したという。

「無理しなくても結構ですが、せっかくだからみんなで一緒に行きませんか。できる限りお手伝いします」というフレンドリースタッフの呼びかけにこたえ、全員が車外へ出た。

千葉県市川市の小林光男さん・静江さんご夫妻は、五年前に光男さんが病に倒れてから初のツアー参加となった。光男さんの回復祝いを兼ねた旅なのだそう。蔵王は、ずいぶん前にご夫婦でスキーをしに来て以来ということだった。

「これまで主人にいろいろな場所に連れて行ってもらったので、これからは私が主人を連れて行ってあげた

わたしのじつくり観光できる旅が好きです。バリアフリー旅行のゆったりペースは私たち夫婦の元々の好みに合っていて、よかったです。と思います。また、同じような経験をしてきた方とお会いできるのもありがたいですね。こういうツアーの本数が増えて、もっと参加しやすくなるといいですね。

千葉県市川市の小林光男さん・静江さん

いんです」。やっぱりここまでできたからにはお釜を見せてあげたいと、光男さんの車いすを押す。

ガイドさん、ドライバーさんも介助を買って出た。そして、新しい遊歩道を通じて全員が展望台に集合すると、ほんの一瞬霧が晴れて、眼下にエメラルドグリーン湖が現れた。よいとはいえない条件の中でここまで来て、絶景を見ることができたことに、全員感慨もひとしおだった。

すっかり冷えてしまった体を温めようと、売店で山形名物「玉こんにやく」や甘酒を買い求め、ほっと一息ついた。ふと気付けば、みな帽子にマフラー、ありったけの上着を着込んだなりふりかまわぬ完全防寒の姿。あまりの寒さに口がまわらなくなっていることもおかしくて、にぎやかな笑いの輪が広がった。

山を下りる途中、紅葉が鮮やかな公園でバスを止め、全員で記念撮影をした。このころには参加者同士すっかり打ち解けて、それぞれのおしやべりに花が咲く。夕日に照り映えるナナカマドの美しさに歓声が上がります。「本当に来てよかった」と口々に

感動を確かめ合った。

翌日はツアー最終日。裏磐梯へ向かう道沿いも、紅葉の盛りだった。

東京都練馬区の三好ひとみさんは、お母様の中村幸子さんとご参加だ。

「四年ほど前から車いすに頼るようになった母は、はっきりとは言わないうんですが、外出や旅行を遠慮している様子でした。それが、一度バリアフリー旅行に参加してから『外へ

出たい』という意欲がわいたみたい。

今回も楽しんでくれたようです」

東京都調布市の坂能サクさんは、俳句を習っており、今回の題材には今度の旅で見た風景を選ぼうと考えている、とのこと。

「紅葉のいい時期にあたって、本当によかった。来る途中の山々が、色とりどりのきれいな着物を着ているみたいでしたね。お一人参加同士、

先の奥田さんと意気投合し、バスの中では「またご一緒しましょう」と、住所交換をされていた。このお二人をきっかけに、今回の旅のことや次の旅の計画など、車内のそこかしこで和やかな会話が始まった。参加者全員、お土産と旅仲間、かけがえない思い出を手に入れたようだった。

旅をあきらめたり、あきらめさせてはいけない

クラブツーリズムで行くテーマのある仲間旅 第2回 松島・蔵王・裏磐梯 新！南東北縦断三日間



右上/リフト付きバスの乗降 左上/瑞巖寺にて。砂利道や段差は前輪を上げて 左中/車いすの介助。斜面を下るときは後ろ向きが基本となる 下/参加者同士で助け合いながら、車いすで乗車

このツアーでは「トラベルサポーター」が一名同行した。これは一般の「旅の友」会員から募集し、バリアフリー旅行のお手伝いをする人のこと。今回のサポーターである東京都東村山市の高橋真美さんは、講習で「せかすような言動は厳禁」といわれたことを肝に命じているという。

「多くの道路や建物は、障害を持つ人にとっては不便で、スムーズに動けなくて当然なんです。だからこそ旅先など知らない場所での不安は相当なものになります。急がせてそれをあおってはいけません。一般のツアーに慣れている私にはまさに『目からうろこ』でした。実際に何度

「障害があるからと旅行をあきらめてしまう人が本当に多いんです。でも普段外出がままならないからこそ、旅が最高の気分転換。本当に楽しんでくださったんだな、と、こちらにも伝わってくる最高の笑顔を見ると、今の仕事をやっていてよかったなあと 생각합니다」

小林光男さんは、お釜見物が特に心に残っているという。
「あきらめようとしたけれど、一緒に見よう、と努力してくれる皆さんの気持ちにかなりうれしかった」とおっしゃってくださいました。

旅には心と体を元気にしてくれる効用があるということを改めて教えてくれた、笑顔のあふれる、とても楽しい旅だった。

わたしの次の旅

の程度に移動なら大丈夫かと計りながら、少しずつ距離と時間をのばしているんです。それで大丈夫なら次は台湾、というように、ゆくゆくは海外旅行にも挑戦したいと思っています。

かサポーターとして参加して、「急がない」旅の必要を痛感したという。
「そもそも、だれだって年をとると病気になることだってあります。私たちも無関係ではられないんです」

クリスタル観光バスの藤田聡(さとし)ドライバーは、介助の経験、知識とも豊富で、休憩中や徒歩移動の際にもなにかとお世話になった。

おすすめツアー	
憧れの豪華園内ホテルデンハーグに宿泊！(リフト付バス利用) 100万本のチューリップ祭りとゆったり ハウステンボス3日間	
コース番号	21396-020
2~3名1室	同行4名
15名	
旅行代金(おひとり)	98,000円
出発日	3月24日(月)・30日(日)
1名1室12,000円増	
1	羽田空港(9:00~11:00のゆったり出発)→長崎空港→(長崎道)=ハウステンボス・ホテルデンハーグ(泊) ※早めのチェックイン
2	ハウステンボス(終日自由行動・園内では色とりどりに咲き誇る約100万本のチューリップに春を満喫)・ホテルデンハーグ(泊)
3	ハウステンボス(出発まで自由行動)=佐世保→九十九島(バリアフリー遊覧船乗船)→長崎空港→羽田空港(17:30~21:00着)
※ツアーお申し込みの際は、ご同行者の「お名前」「年齢」のほか、「電話番号」をお教えてください。	
※詳細は「バリアフリー通信」をご請求ください	

お問い合わせ・お申し込みは
TEL:03 (5323) 6915 月~土9:15~17:30
(日・祝は休業)



それぞれ思い出の風景は見つかっただろうかと上/紅葉の五色沼で、参加者全員で記念撮影下/秋の夕暮れの中、穏やかなひととき

「ツアーにはついていけない」と旅をあきらめてしまいう前に、ぜひ「一報ください」。

参加者同士の交流が密なもの特徴です。似た境遇の方同士の情報交換の場になると同時に、お互い励みにもなっているようです。



フレンドリースタッフ 伴流高志

フレンドリースタッフ伴流高志が語るバリアフリーの旅の魅力

バリアフリー旅行が一般のツアーと大きく異なる点は、①宿泊はベッドのあるお部屋 ②トイレ休憩にもゆとりを持たせて(洋式へご案内) ③バス座席数も参加人数より多めにご用意 など、「いつでも、どこでも、だれでも楽しめる旅」をめざしています。車いすをご利用の方だけでなく、ゆったりした旅を楽しみたいという方にも広くご参加いただいております。

お世話になりました

車中だけでなく、バスの外でもお世話になった、クリスタル観光バスのドライバ―藤田さんと、ガイドの川口さん。「皆さんの笑顔が見られることが、私にとっての仕事のやりがいです」(藤田さん)、「ありがとう」より「いい旅だった」と言われるように「ご案内したい」(川口さん)。参加のみなさんから「大満足！」の声か飛んでいました。



松島薄餅本舗の笹かまセットを、抽選で五名様にプレゼントいたします。はがきに住所・氏名・年齢・電話番号および「南東北のお土産希望」と明記のうえ左記まで「応募」ください。
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-3-1 新宿アイランドウイング8階「旅の友」編集部
読者プレゼント係(締切2月10日消印有効)
※当選の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます

次号予告 3月号(2月10日発行)は、
「年末年始をウィーンでむかえる音楽の都ウイーン滞在6日間の予定です」